



徳島大学病院神経内科

山本 伸昭 医員



# 脳梗塞に機械的血栓療法

脳梗塞は脳を流れる血管が閉塞する疾患で、命と暮らしを直撃するものです。特に太い血管が閉塞した場合、病状の医学的な見通しは良くないとされています。しかし、発症から早期に閉塞部を再開通させることで、疾患の改善が期待できます。

本邦では、血栓溶解薬「遺伝子組み換え組織型プラスミノゲンアクチベーター」(rtPA)が使用可能となりました。発症から4時間半以内に点滴で

静脈から投与を開始する必要があります。ありましたが、近年では発症時間が不明であった場合でも、頭部画像検査で投与可能かどうか判断し、一定の条件がそろえば投与可能になっています。

しかし、主幹動脈が閉塞している場合、rtPAの効果は限定的で、有効な早期再開通が得られないことが多いとされます。そこで、近年、閉塞した血管にカテーテルを誘導して血栓を回収する治療(機械的血栓回収)

「テント」に血栓を絡めて一緒に回収するものです。吸引型とステント型を組み合わせて回収することもあり、こういった治療で、有効な早期再開通が得られるようになりました。ただし、このような治療を行える患者さんも限られており、一定の条件をクリアした方に行われるのが現状です。

脳血管障害の基本的な治療は、機械的血栓療法ができる病院にできるだけ早く受診することです。早く受診することで治療の選択肢が増え、多くの患者さんが救えることとなります。

昨年末、脳卒中や心臓病の治療体制向上や予防を目指す「循環器病対策基本法」が成立しました。今後の救急整備、病院の役割分担などが進み、救急搬送及び医療機関による受入れが迅速で適切に行われるようになり、リハビリテーションを含む急性期治療の提供、循環器病患者さんに対する保健、福祉に係るサービスが推進され、研究などが進むことが期待されます。

とです。早く受診することで治療の選択肢が増え、多くの患者さんが救えることとなります。

昨年末、脳卒中や心臓病の治療体制向上や予防を目指す「循環器病対策基本法」が成立しました。今後の救急整備、病院の役割分担などが進み、救急搬送及び医療機関による受入れが迅速で適切に行われるようになり、リハビリテーションを含む急性期治療の提供、循環器病患者さんに対する保健、福祉に係るサービスが推進され、研究などが進むことが期待されます。